NPO法人 バリアフリーペンション まついだ森の家 30周年記念誌

30th Anniversary

まついだ森の家

皆様に支えられて

30周年を迎えました。

この春、新たな30年に向けて

スタートします！

ご挨拶

理事長 榎本則幸

この度、木下美幸前理事長のあとを受け継ぎ、令和7年10月25日付で就任しました榎本則幸です。記念すべき30周年を機に、この30年間をともに歩んでくださった皆さまへの感謝を申し上げるとともに、今後のさらなる発展に向けた新たな一歩を踏み出す機会としたいと思います。

今後ともどうか変わらぬご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、まついだ森の家が開設される前年、私は米国テキサス州で援助付き雇用やジョブコーチ支援サービスについて学んでいました。憧れを抱いてホテルで働く障害がある方と出会い、いつか日本でも実現したいと願っていました。30年後の今、まついだ森の家は、障害の有無に関わらずくつろぎの宿であり、また働く場として、多機能型事業所（就労継続支援B型／生活介護）の開所を目指しています。

引き続き、皆様のお越しをスタッフ一同心よりお待ち申し上げております。

副理事長 鈴木成就

たまにピザ焼きのお手伝いをすると利用者のかたが喜んでくれて嬉しいです。今度は利用者にも怪我しないように注意しながらピザ焼きに参加してもらえたらいいなと思っています。

30年前、横浜のみんなの思いが集まってできた小さなバリアフリーの宿。観光地でもない里山の隅っこでのたくさんの出会い。そして何度も奇跡のように差し伸べられた手のリレーがありました。ほんの一ヶ月の間に、この里山が、茶色から花と緑へと塗り替えられる春が好きです。

初代NPO法人
理事長 黒羽知代

『ここが一番好き』という場所。
ウッドデッキから見る庭は落ち着きます。
仕事前に外で食べるご飯は、自然を独り占めしている様な贅沢な時間を過ごせる場所です。

理事 三浦千鶴子

理事 大部さつき

自閉症の息子と気兼ねなく泊まりにいける場所がないかと友人に話したことから、森の家とのお付き合いが始まりました。
ペンションの朝は、山鳩の鳴き声が優しく包んでくれます。
心がホッとする場所です。

前理事長 木下美幸

森の家は障がいのあるご家族の安らぎの場、共に働ける場を目指し、多くの皆様の善意と寄付に支えられて設立当初から30年間歩んでまいりました。
理事長在任中のご厚情に深く感謝申し上げます。先立たれた初期からの支援者の方々の願いを胸に、退任後も皆様と共に森の家の発展を応援してまいります。

まついだ森の家 30年のあゆみ

自然豊かなこの地で、ハンディキャップのある方も安心して過ごせる場所
を目指して歩んできた30年の軌跡をご紹介します。

1990年

「まついだ森の家」構想の始まり

横浜の小沢夫妻が、「自然の中にハンディがあっても安心して泊まれる宿を」「そしてともに働き暮らす場を」と発案。松井田町の紹介で土地を購入し、賛同者を募り始めました。
（※小沢眞互氏より土地の無償貸与を受ける）

1993年

有限会社「まついだ森の家」設立

福祉関係者や障がい者家族など34名の出資により、有限会社を設立。2×4工法による建物の自力建設を開始しました。資金や備品はバザーなどを通じて調達されました。

1996年

バリアフリーペンション オープン

6月、ついにバリアフリーペンション「まついだ森の家」が完成し、オープンを迎えました。運営スタッフも松井田へ移住しました。
（※設立時社長の小沢征代氏は、オープンを見届けた後に逝去されました）

2007年

NPO法人化へ

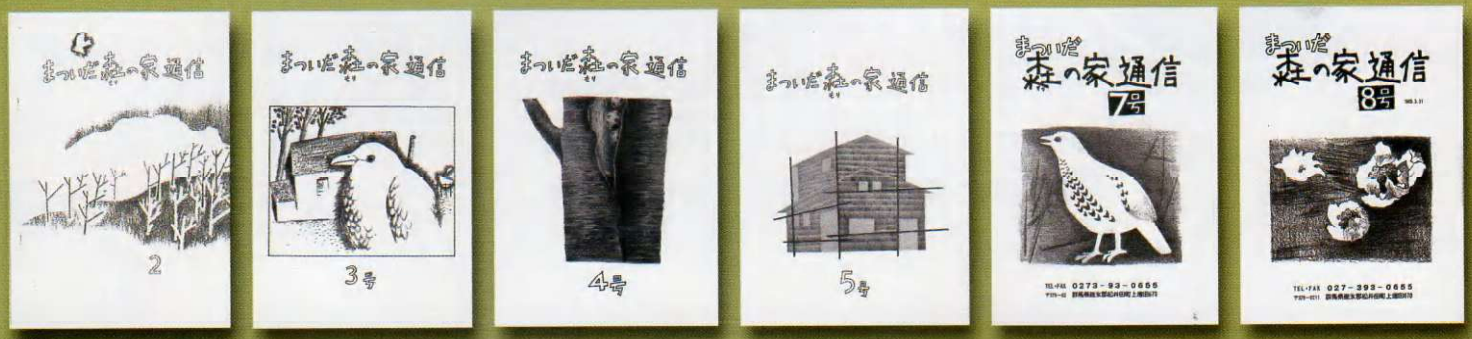
NPO法人「まついだ森の家」となり、新たな体制へ。有限会社より建物の無償譲渡を受け、黒羽知代が理事長に就任しました。

森（もり）の字の由来

かつて北海道紋別郡滝西という過疎の町に徳村彰さんという方がいらっしゃいました。それ以前に横浜市港北区こども文庫をひらいておられたご縁で、北の地で当時の子どもだった何人かの若者と生活なさいました。毎夏こどもキャンプをしながら将来は森の中での暮らしを始めるべく、森への思いを深めておられていたようです。

森はそんな徳村さんによる造字です。

初期の森の家通信は最初からのスタッフ石橋邦和さんの魅力的なイラストで表紙が飾られました



～森の家通信創刊号記事より～

創設者小沢眞互氏による開設の精神

まついだ森の家 わたくしたちの夢
わたくしたちが松井田に魅かれたわけ

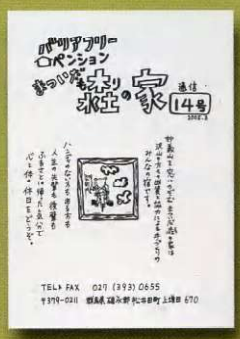
わたくしたちが手にいれたあの場所の付近には木が沢山あります。きれいな水があります。鳥や小さな動物たちが沢山住んでいます。良い土があります。

つまり「木と水と土 ＝ 森」森が生きているところにわたくしたちは魅力を感じました。今わたくしたちがくらしている町（横浜）では自然とのふれあいがほとんど感じられません。自然に学びながら、できるだけ自然に寄り添った生き方をしてみたいと考えています。

わたくしたちがやりたいこと

第一の計画では、ハンディをもつ人も安心してゆっくりと泊まれる場所を作りたいと考えています。いまハヤリのペンションとかじゃなくて、もう少し素朴であったかな所（山荘ふう）にしたいと思います。スタッフが少ないのでごく小規模なものを計画しています。もしも、とてもはやって忙しくなったら、地元の方の応援もお願いしたいと考えています。そしてそこはただ単に泊まるだけではなく、周囲の自然を利用していろいろな工房を作ろうと思います。陶器を焼く工房、染め物の工房、機織りの工房、手作りのパンやおかし、それからしょうゆ、味噌などなど・・・・・・夢は限りなく広がります。地元で教えていただけた炭焼きなんかもやってみたいと思います。ここを訪れる人はいろいろなものを作り出す という体験ができます。第二の計画としては、地元の機関

とタイアップして地域福祉のお手伝いができれば、と考えています。将来的には、お年寄りの昼食のサービスや、地域の方を対象とした様々な 講習会や、楽しいイベントなども計画してゆきたいと思います。第三の計画としては、「まついだ森の家」を障害をもつ人、もたない人が共に働き、共に生きる場所にしたいと考えています。障害をもっていても、宿泊施設（山荘）で働けますし、また周囲に畑を作ったり、シイタケを作ったり、ニワトリを飼ったりして働くところを作りたいと思います。畑の仕事や、ニワトリの飼育などは皆しろうとばかりですが、是非地元の方のご指導を受けたいと思っています。



森の家通信
最新号～
2007.7.7 号

皆様からの応援メッセージをいただきました。ありがとうございます。
インタビューにご協力してくださった方々にも御礼申し上げます。

瀧澤久美子様

「森の家」は、障害者が安心して集える場として、小沢征代さんが中心となって立ち上げたものです。小沢さんのもとでは、寮母をしていた伊藤さんらと共に、家が完成する前からキャンプなどを通して楽しい時間を共有していました。滝澤さんは「優しさにあふれる場所であってほしい」こと、征代さんの「誰でも泊まれる場所にしてほしい」という思いがあったことも伝えてくださいました。

柴崎智美様

24～25歳の、アルバイトとして出会った森の家。春市やカフェ、福祉ランチ、ピザ作りなどを通して、人見知りだった私に自信とたくさんの仲間をくれました。病気があっても安心して過ごせる、癒しの場所でした。森の家で学んだことは、今の生活にもずっと活きています。
これからも多くの方に愛される森の家であり続けてほしいと願っています。

南部親子様　富樫眞澄様

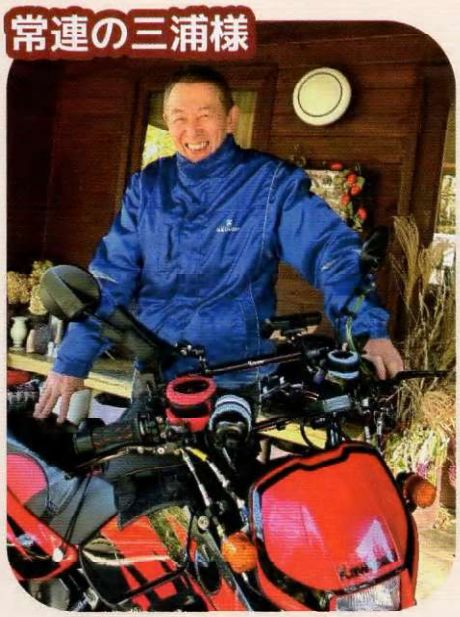
障害のある、言葉を持たず走り回る息子・翔を育てる日々の中で、いつも心は緊張で硬くなっていました。
けれど森の家に行くと、実家に帰り母に会った時のように、黒羽さんご夫婦のあたたかさに触れ、心がほどけて幸せな気持ちになれました。廊下を走っても、大きな声を出しても「大丈夫」。
翔がクルタやソラと散歩をし、花火を楽しむ姿を安心して見守ることができました。
森の家は、私が笑顔を取り戻し私に戻れる大切な場所です。
これからもずっと大切なまついだ森の家です。

※イラストはイメージです

群馬県自閉症協会様

「回を重ねてお世話になる中で、**継続は力なり**という言葉を実感しています。
調理から食事までの流れはとても自然で、参加された皆さんが落ち着いて作業し、それぞれの満足感をもって帰途につかれていました。」
・・・群馬県自閉症協会の皆さんは、毎年森の家でのピザ体験を大切に続けてくださっており、その積み重ねが森の家の歩みを支えていることを強く感じています。

常連の三浦様



たまたま出会ったまついだ森の家。
あれから5年、愛車やバイクを走らせ、年に数回このペンションをご利用下さっています。

池田誠司様

30年という節目に、心からの祝福と敬意を表します。
自然に囲まれた森の家は、いつ訪れても穏やかな気持ちにさせてくれる、思い出が重なる大切な場所です。
子どもたちが小さかった頃、旅の途中で立ち寄り、クルタに迎えられながら過ごした時間は、今も心に残っています。風景は少しずつ変わっても、森の家のやさしさと居心地の良さは変わりません。
これからも多くの人が「ただいま」と言いたくなる場所であり続けることを願っています。

内田康子様

車いすユーザーの内田さんは、「バリアフリー」という言葉をあまり聞かない頃に、お越しいただきました。車いすでも何の支障もなく室内に行ける構造に魅力を感じていただき、ここなら安心して泊まれると思って、車いすのお友達を誘って春と秋の常宿にしてくださいました。
ご近所ということで、イベント企画等にも関わっていただき、ここで出会った方々とは今もお付き合いがあるそうです。「後継者や経営、難しい問題を抱えながらも、森の家が森の家の在り方を貫き、継続する事を祈ってやまない一人である」と結んでくださいました。
森の家の中には、康子さんの絵が、お客様を優しく出迎えてくださっています。

NPO法人 バリアフリーペンション
まついだ森の家

〒379-0211　群馬県安中市松井田町上増田670
Tel＆Fax：027-393-0655
EMAIL：matsuida.morinoie@gmail.com

ホームページ　FACE BOOK　予約フォーム